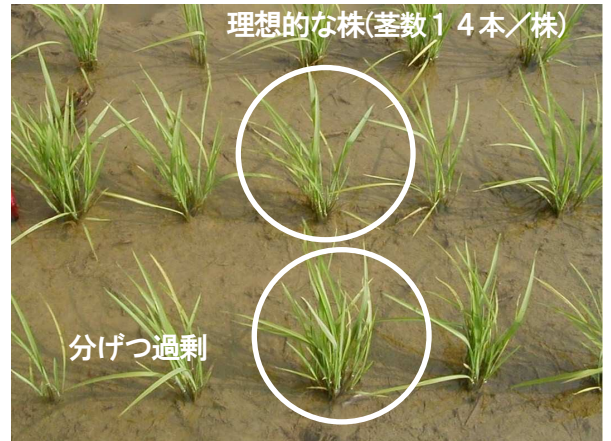


確実な水管理で適正な穂数を確保しましょう!!

1. 水稻の生育状況（5月27日）

現在の生育状況は、草丈は短く、分けつの発生がほとんど見られません。葉齢の展開から、生育は平年より2日程度遅れている状況です。

中干し開始までは、1~2cm程度の 浅水管理 で有効茎（充実した穂となる茎）の早期確保に努めるとともに、田干し による根の活力を高め、稲体の健全化を図りましょう。



2. 当面の管理

(1) 中干しで適正穂数を確保

本年は、分けつの発生が遅れています。

なお、圃場条件や管理による差が見られるので、圃場ごとに開始適期を確実に把握し、的確に実施してください。

- ① 中干し開始の目安は **1株平均14本** となった時 （写真参照↑）

圃場条件	程度と方法	開始時期と継続期間(目安)	留意点
一般田	小ヒビ程度まで干し上げる	6/10頃~6月末(能登ひかり) 6/10頃~7/10(コシヒカリ)	※葉色が濃い場合、遅発分けつが止まらない場合は、期間いっぱい、中干しと通水を繰り返す。
高地力田、湿田、生育過剰田	やや大きめのヒビが入るまで	一般田よりやや早めに開始し、やや遅めに終了する	
漏水田、砂質田、用水不足の地域	田干し程度	一般田と同様	

- ② 水管理を効率的に行うために **溝切り** を実施する。
③ 中干し終了後は、根の活力低下と白未熟粒の発生を防ぐため **飽水管理**（土壌が十分に水を含んだ状態を保つ管理）とする。

(2) いもち病の予防

- ① 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので、早急に圃場から取り除き処分する。
② 苗箱に「Dr.オリゼダントツ箱粒剤」等を散布できなかった圃場では、6月10日~20日に「オリゼメート1キロ粒剤」を必ず散布する。

※ 5月20日以降に植えた稲（晩植稲）も、葉色が濃く経過し葉いもちが発生しやすいので、生育の遅速にかかわらず、上記期間に必ず散布する。

(3) 初期害虫の防除（目安）

- ① イネドロオイムシ・稲 1株に卵の塊が1つ以上確認された場合、幼虫多発時(6月中旬頃)に防除
② イネミスゾウムシ・稲 10株に3匹以上の虫が見られる場合、即時に防除

対象害虫	薬剤名	散布量	留意点
イネドロオイムシ	パダン粉剤 DL	3~4kg/10a	収穫21日前まで
イネミスゾウムシ	トレボン粒剤	2~3kg/10a	収穫21日前まで

(使用基準：平成23年6月1日現在)



イネドロオイムシの卵

(4) 後期除草剤の使用

対象雑草	薬剤名	散布量	留意点
ヒエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a	ため水散布、田植後7日～ヒエ4葉期まで(収穫30日前まで)
ヒエ以外	バサグラン粒剤	3～4kg/10a	落水散布、部分散布可能、田植後15～50日(収穫60日前まで)

(使用基準：平成23年6月1日現在)

(5) PK けいさんの施用

軟弱な稲体が多く、早期に健全化を図る必要があるため、本年はできる限り早い時期の施用に心がけてください。

なお、稲体に効率的に養分を吸収させるため、事前に **田干し** を実施し根の活力を高めましょう。

(施用効果：稲体を強固にし病害虫への抵抗性を高め、根張りを向上し耐倒伏性を高める。)

資材名	施用時期	施用量
BBPKけいさん	できる限り早い時期	40kg/10a

※「コシー発くんプラス」を施用している圃場では、「PKけいさん」の施用を省略できます。

(6) 雑草地（カメムシ生息地）・畦畔の除草管理

圃場周辺にカメムシを生息させないため、必ず7月上旬に畦畔や休耕田・河川敷など雑草地を除草しましょう。

(7月10日までに圃場周辺をきれいな状態にしておく。7月中旬以降の除草は、かえってカメムシを本田に追い込むことになるので、原則行わない。)

※刈り払った雑草が、河川や水路に流れないように注意しましょう。

(7) 農薬の使用について

- ① 農薬の使用にあたっては、「栽培ごよみ」を参考にするとともに、農薬のラベルに表示されている農薬使用基準（対象作物、使用量、使用時期、使用回数）を必ず守ってください。
- ② 前回と異なる農薬を散布する際は、散布機に農薬が残っていないか確認し、しっかり機械を掃除しておきましょう。
- ③ 農薬の散布にあたっては、周囲へ飛散しないよう十分注意しましょう。

【これからのスケジュール】

時期	6月中旬	6月下旬	7月上旬	7月中旬
中干し	溝切り 能登ひかり コシヒカリ	溝切りのおし 中干し開始の目安 平均14本/株		中干し終了後は “飽水管理”
草刈り等の作業	PKけいさん散布 オリゼメート散布 バサグラン使用期限 ※5/1 田植えて6/20		穂肥(能登ひかり) 青除草 7/8 ~ 10	穂肥(コシヒカリ) 穂肥(能登ひかり)

【中干しの効果・意味】

- 後発分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぐ
 - 節間伸長を抑制し、倒伏を防止する
 - 根に十分な酸素を供給し、根張りを良くする
⇒ 登熟期間に効率的な養水分吸収が可能となり、登熟が向上する
 - 地耐力を向上させ、収穫作業を容易にする
- 倒伏防止
- 乳白抑制
 - 胴割抑制